２０２４年３月７日　交通脱炭素セミナー
脱炭素のカギは「水素」　～交通分野の脱炭素化に向けて～
宿利会長　挨拶

こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。
お忙しい中、本日のセミナーに足をお運びいただきました皆さま、また、オンラインでご視聴いただいています皆さまに、心から感謝申し上げます。
また、年度末のご多忙の折にもかかわらず、本日のセミナーの開催にあたり、基調講演を行っていただきます、九州大学副学長の佐々木 一成（ささき かずなり）先生、そして、パネルディスカッションにご登壇いただきます皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、本日のセミナーでは鉄道、海運、航空といった交通分野における脱炭素化に向けた、水素の利活用に関する取組、課題と今後の展望について、皆さまと共に考えてみたいと思っています。

まず最初に、気候変動の問題は、環境問題にとどまらず、産業の存廃を含め人類のあらゆる活動の持続性に関わる極めて重要な、そしてグローバルな課題であるということを申し上げておきたいと思います。
このような課題認識に基づき、当研究所では、2020 年から主に国際交通分野の脱炭素化に関する調査研究に精力的に取り組んでまいりました。航空分野については、ICAO が定めた CO2 削減目標を踏まえて、我が国における持続可能な航空燃料 SAF の生産ポテンシャルや長期の CO2 排出削減見込みについて明らかにし、SAF の国産化の重要性を示しました。また、国際海運については、IMO の議論を踏まえ、新たな代替燃料のライフサイクル CO2 排出量について調査し、その評価手法について広く世界に提言するとともに、新たな燃料規制案に関する調査研究も進めております。

2020 年からの 4 年間で、気候変動と脱炭素に関する世界の議論は大きく動きました。
昨年ドバイで開催された COP28 では、「2050 年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするため、化石燃料からの脱却を進める」ことが合意されました。各国の動きを見れば、欧州は「Fit for 55」政策パッケージの施行、米国においてはインフレ抑制法によるグリーン産業への大幅な投資支援が行われています。
我が国においては、昨年６月にいわゆる「GX 推進法」が成立し、脱炭素成長型経済構造への移行を強力に推進していくこととなりました。

これらの動きの中心となっているのは、あらゆる産業における化石燃料からの脱却であり、エネルギーと燃料をグリーンなものに転換していくことです。とりわけ、交通分野は、鉄鋼産業などと並んで、電化による脱炭素化が難しい

「hard to abate sector」として強力な取組が求められています。
　交通用燃料の脱炭素化に向けては、バッテリーによる電化、水素、バイオ燃料、合成燃料と様々なものが期待されています。このうちのひとつである水素は、燃焼時に全く CO2 を排出せず、トラックや海運など大出力・長距離輸送の交通モードに適している、と期待されております。

　しかしながら、我が国における交通分野の水素の利活用については、自動車分野で先行するものの、各交通モード単独での検討にとどまり、我が国の交通分野全体として水素をどう活用すべきか、水素サプライチェーンの構築をどうするのか、など交通分野横断的な検討は進んでいないのが現状です。
　我が国における現在及び将来の交通の姿、交通に期待される役割を考えれば、交通モード別ではなく、日本の交通産業全体として協調しながら、カーボンニュートラルの実現に向けて水素の利活用について検討していくことが必要かつ不可欠であると考えています。このような課題認識に立ち、当研究所では、今年度より、水素に関わる有識者、関係業界の参画を得て、交通分野の水素の利活用に関する調査研究をスタートしたところです。

　一方、気候変動対策としての水素の利活用に加え、ロシアによるウクライナ侵攻などを背景とする世界的なエネルギー構造の変化の波を受け、水素社会の実現に向けた動きは世界中で加速化しています。我が国でも昨年６月、６年ぶりに水素基本戦略が改定され、今国会には「水素社会推進法案」が提出されるなど、水素社会の実現に向けた取組が進みつつあります。
　水素は、発電・産業・交通といった幅広い分野の脱炭素化に資する、2050 年カーボンニュートラル実現に向けた「カギ」となるエネルギーです。交通分野の水素利活用を進めるには、水素を巡る様々な動向を広く捉えながら、各交通モード、関係者間でどのように連携できるかを考えることが重要です。

　このような観点から、本日のセミナーは、交通の各モードの当事者、水素社会の実現を目指す業界団体、水素の地産地消に取り組む自治体の皆様に一堂に会していただき、それぞれの取組の最前線の状況をご報告いただくとともに、今後の課題と展望について一緒に議論していただくことを目的に、企画いたしました。

　本日の議論を通じて、交通分野の脱炭素化に向けた水素の利活用の国内外の動向や将来の課題などについて、それぞれに情報や問題意識の共有を図り、今後どのような取組みや施策が必要となるのかについて、皆様と共に考察を深めたいと思います。
　本セミナーがご参加いただきました皆様及び関係業界・関係機関の方々にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、冒頭の挨拶といたします。
　本日は誠にありがとうございます。　　（以上）